

議事録概要

1 平成29年度モニタリング調査の結果について

- 蒔田会長 結果の⑧天然広葉樹の実生の中で、実生の生えているところと生えていないところの違いはどんな感じか。
- 和田委員 多くの実生があった島12は、天然林の隣で種子が飛んでくる条件として良いところ。ウダイカンバの実生は、耕耘した際の埋土種子の発芽が考えられる。全体的には生えていない場所が多く、一部ヤナギ類が生える程度。
- 青木委員 キハダやウダイカンバが生える場所は湿ったところか。
- 和田委員 この周辺はキハダやウダイカンバが全面的に生えている。この樹種はパイオニア的な特徴があるため、初期段階では条件にあまり違いがない。生育過程で差が出てくる。
- 安達オブザーバー 大規模モニタリングサイトは来年度に整備を予定しているものか。
- 和田委員 H30年度は全体を調査しサイトの区画設置を行い、次年度から毎木調査などを行ってシステムを構築していく予定。いずれは、環境学習など自然環境を発信する場として活用できるものと考えている。
- 蒔田会長 どの位の規模になるものか。
- 和田委員 労力と時間にもよるが数haから数十haと考えている。サイトができることによって、色々な関係の研究者などが入り情報発信してもらうことで森吉山麓の自然再生にもつながっていく。森林に限らず大気とか昆虫とか様々な分野にも発展していければと考えている。
- 星崎委員 サイトを作るのにモニタリングをしましうでは中々人が集まらないので、これからここで何をやるのかが必要になる。
- 和田委員 そういうところを徐々に構築していきたい。この場所は道路にも近くロケーションも良い。これだけのブナ林が残っている民有林は中々ない。
- 蒔田会長 これからどの様に進んでいくのか、体制作りも必要になる。
- 青木委員 白神山地でもブナ林モニタリングサイトがあるため、調査項目を一致させれば面白かもしれない。
- 蒔田会長 樹木の測定や実生の発生、種子の調査など基本的には同じ内容になると思う。面白い例として、青森県の中学生がブナ林のモニタリングサイトを持っていて代々調査を行っている。中高大とつなげていければ従来と違う味が出るかもしれないし、植えた木の生長とかもみれていい。
- 和田委員 大気の関係では、日本海側に遮蔽物がないため、来年度はオゾンの観測をやることにしている。
- 蒔田会長 ドローンを使って温暖化ガスを測るようなプロジェクトを始めた先生もいる。大規模モニタリングサイトは、今後も情報共有していければと思う。

2 平成29年度事業の実績について

- 蒔田会長 下刈りで刈り払い後の効果はどうであったか。
- 事務局 下刈りは7月から8月に行われるものであるが、当地は8月から9月にかけて全面にススキが繁茂するため、刈り払いのタイミングが難しい。降雪時期にススキが倒れ植栽木に被害が発生しているところもあるため、補植した箇所ではススキを刈り払った方が雪害を受けづらい感じがする。背丈以上に伸びるススキの全面刈りは大変な作業であるため、補植が必要な区画を選んで実施していく方法を考えている。
- 村田委員 団体で植樹した木は、2m以上になるとススキの影響を受けないが、1m未満のものは繁茂したススキと一緒に倒れて折れてしまうため、坪刈りを行っている。ススキが生える前に誤伐防止にもなるイボ竹を立て、木の周囲を刈り払う方法をとっているが、イボ竹は秋に回収しないとススキと一緒に倒れてしまうため注意が必要。
- 和田委員 下刈りの方法は一長一短と考える。
- 蒔田会長 環境学習への参加者はどういった方が多いのか。
- 村田委員 環境省の野生鳥獣センターイベントの参加者になるため、観察会の内容によって異なるが、秋田市から大人の参加が多い。9月30日は地元小学校からの参加があったが、移動手段のバスの確保など大変さがあった。市教育委員会さんにも協力をお願いすることになるが、各学校の環境学習で森吉山麓高原に連れて行ければと思う。
- 松橋委員 市内の小中学校への周知方法はどの様にされているものか。市として、北秋田市市内の小中学校への周知は可能。市内に林業系学科がある高校があるため、学校へ相談すれば植樹に関しても協力してもらえらると思う。
- 村田委員 地元の中学校は数年前まで森吉山でキャンプをしていたが、最近は自然観察に併せて植樹を行っている。市内の学校には、各学年の親子レクリエーションがあると聞いていたため、体験メニューを学校側にお願いしたものの申し込みがなかった。
- 松橋委員 学校の来年度行事予定は2月頃に決まるため、その前に大体の日程が分かれば、学校側でも対応できると思う。年間行事が決まった後では難しいため、1月中に話ができれば動きやすい。

3 平成30年度事業の計画について

- 星崎委員 和田委員から説明があった大規模モニタリングサイトは、この事業計画に盛り込まれているものか。
- 和田委員 位置づけとしては再生事業とは別ものになる。
- 村田委員 森吉山ダム湖水まつりは春と秋に開催しているが今年は何月頃の予定か。
- 佐藤委員 湖水まつりは例年6月と10月の開催でしたが、来年度は9月2日（日）を予定。カヌー体験や出展などを企画していて、実行委員会としても環境省野生鳥獣センターや自然再生協議会と一緒に環境をPRできればと考えている。また、ダムの隣にあるダム広報館を学習会や森吉山麓高原の情報発信など皆さんにも活用していただきたい。

- 村田委員 毎年参加者が多いイベントで羨ましい。参加者にトチの実を渡して、1年後育てた苗木を植樹してもらおう企画もありでは。
- 佐藤委員 祭りの日に限らず題材があれば別の日でも可能。ダムでは森吉四季美湖の植樹活動を行っているため、そういった地元の方々や団体とも連携できればと思う。
- 蒔田会長 出展については、具体的にどんな内容を考えているものか。
- 小笠原代理 環境省野生鳥獣センター運営費の予算の関係もあり、これから仕掛けを考えていく。
- 松橋委員 来年度の星空観察会はいつか。星空観察会は短期チャレンジ留学でもやっていて、スケジュールが合えば子供たちを連れていけるため情報をいただきたい。
- 小笠原代理 来年度の環境省野生鳥獣センターイベント情報は、内容が決まり次第、印刷して主な施設に配付するため、周知をお願いしたい。
- 蒔田会長 情報共有の仕組みを考えたほうが良いのでは。掲示板的なところとか。
- 小笠原代理 森吉山麓は通信環境がないため環境省のHPに掲載している。チラシを公共施設で掲示したり、HPに掲載するなど協力いただけるとありがたい。
- 高松委員 県でも開催するイベントでチラシを配布したりHPに掲載するなど情報発信をしていきたい。秋田市内の方からは、森吉まで県庁発着のバスがあればいいという声もある。
- 村田委員 人気のある観察会は問い合わせが多いが、交通の面で申し込みが減ってしまう。イベントで秋田市内から子供たちを集めているが、一番経費がかかるのは交通費になる。
- 高松委員 自然観察会と併せて植樹や下刈り作業を行うのであれば、県の森づくり税の活用も可能ではないか。
- 村田委員 以前、団体では森づくり県民提案事業を活用し数年間実施したことはある。
- 金萬代理 団体が行う場合、県の森林ボランティア団体に登録されていれば、上限85万円の森林ボランティア活動支援事業を活用できる。課題である交通費も補助対象となっているため、H31年度の事業から検討していただきたい。
- 村田委員 民間企業からも自然に対する支援があるため、来年度はそれを活用する予定。
- 九嶋委員 国で森林環境譲与税が創設される話があり、来年度実施計画を策定し、H31年度から全国各市町村で森林整備などの事業が始まると聞いている。用途はハード事業とソフト事業があるようなので、県と相談しながら市でも協力可能と考えているが、県の森づくり税との関係はどの様になるものか。
- 金萬代理 現在、森林環境譲与税は国のガイドライン待ちで具体的なものは未定。県の森づくり税の制度と内容が重複する場合は、今後見直しが必要となる。
- 蒔田会長 まだ形が見えていないため、全体の動きをみながら連絡を取り合って、翌年の活動を検討できる時期に協議会を開催してはどうか。
- 高松委員 現場状況も変化してきているため、現地調査しながらやることも必要では。

青木委員 現地のススキはどの位の高さになるものか。

和田委員 殆ど2m以上に生長する。ブナは植えて数年間はそれ程負けないが、雪との共倒れが怖い。下刈りと言っているが、光合成を促す下刈りではなく、ススキによる雪倒れを防ぐ意味合いが強くなっている。

蒔田会長 雪倒れがあれば秋の刈り払いがいいのかもしれない。

細川代理 雪との共倒れの話があったが、ブナが小さい時は倒れにくく耐えそうな気がするがどうか。

和田委員 ススキは地面の下に栄養分があり刈り払っても元に戻るため、効果はない。

蒔田会長 現在の計画では刈り払いは何月頃になるのか。

事務局 補植が秋になるため、9月頃の刈り払い（下刈）を予定している。

星崎委員 9月の刈り払い1回だけでは、光合成を4ヶ月もした後で、あまり効果がない。

青木委員 下刈りという言葉が適切でないかもしれない。

蒔田会長 刈り払いをするところはH28年度に補植したところと来年度補植するところで植えるために行うものか。

事務局 はい。来年度は北側エリアと南側エリアを調査して補植を行う計画のため、その場所の刈り払い作業を行う予定である。

星崎委員 雪倒れを考えると、杭を打って秋にブナを括り付けた方が頑丈では。

和田委員 目印であれば有効と考えるが、現地は草地跡の斜面であるため、雪で杭ごと折れてしまう心配がある。

村田委員 今後も自然再生を継続していくには、民間の力が必要になると思う。私達の団体は子供たちと一緒に活動する企画を考えているが、県では例えば老人クラブや町内会など地域の方たちを呼び込む予定はあるものか。

高松委員 地域の方たちを呼び込むのは大事なことと考える。ボランティアで活動する団体に対して支援する方法があるため、村田委員の団体のように現場に根付いた活動ができる団体が増えれば良いのだが。県が実施する自然再生の予算はどんどん削られていて、今後は地元の北秋田市の協力も得ながら進めて行く必要がある。

青木委員 国の森林環境税を活用できれば、市町村事業として県もタイアップしながら効率的にできないものか。

九嶋委員 今は、国が示すガイドラインと県の森づくり税とのすり合わせの段階であり、どう住み分けされるかがはっきりしていない状況で何とも言えない。

蒔田会長 協議会の開催時期は、今後の動きをみながら相談し決めることとする。保育事業は、何処でどの位やるのか具体的な内容を示し、必要に応じて委員の方から意見を聞きながら実施していただきたい。来年度事業は継続的な意味合いが多いが、関係者と協調しながら進めていただきたい。